

## 令和6年度 熊野町立熊野第一小学校 研究推進計画

### (1) 研究主題

#### 自分で学びを進める児童の育成 ～学びを振り返る活動を通して～

### (2) 主題設定の理由

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）中央教育審議会（2021）」において、「急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。」と示されている。また、学習指導要領を着実に実施するに当たり、「GIGA スクール構想により整備される ICT 環境を最大限活用し、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を充実していくことが重要である。」とも示され、特に、授業改善では、「学習の進め方（学習計画、学習方法、自己評価等）を自ら調整する力を身に付けさせることを一つの柱として行うことが考えられる。」と示されている。つまり、これからの学校には、子どもたち自身が、自分のよさや可能性を認め、他者とともに学び合う中で、自ら ICT を活用して主体的に学習するなどの資質・能力（自己調整力等）の育成が求められていると考える。

本校は、令和3年度から、広島県教育委員会「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定を受け、熊野中学校区の三校合同で系統的に育成を目指す資質・能力を設定し、PBL（プロジェクト型学習）の考え方を参考に、生活科及び総合的な学習の時間の単元計画を開発・実践をしてきた。さらに、その資質・能力を評価するためのルーブリックの開発と活用について研究を進めた。協働的な学びの場の設定を工夫し、意図的な振り返りを行うことによって、児童の表現力を向上させることを目標として取り組んできた。昨年度までの課題として、本校は、理解できていること・できることを使って表現できていない児童が未だに多くいる。また、学び合う場において、一方的に自分の考えを伝えっぱなしで、相手がそれを受け止めてくれる喜びを感じることができず、対話的な学びが成立しないこともある。また、振り返りが形骸化している実態もある。児童自身が、学習の成果や成長に手応えを感じながら汎用的な能力を身につけて、「次は、明日は、だれとどんなことをいっしょに学ぼう（学びたい）」と児童自らが学習を前進させようとする姿を目指したい。

そこで、これまでの取組を基に、今年度は児童に身に付けさせたい資質・能力を

#### 自分で学びを進める力

- ・振り返る力 ～自分や友達の学びを振り返り、次の学習や生活に生かそうとする子～
- ・協働する力 ～友達と意見を交流しながら、よりよい考えを見付けようとする子～
- ・分かる・できる力 ～学習内容を理解し、それを基に問題を解決する子～

と設定した。児童自ら学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況の評価して次につなげる等、学習の進め方を自ら調整し、主体的に学習に向かっていく姿は、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を高める。児童の思いや願いを大切にしながら授業や単元を構成し、教師のファシリテート力の向上を目指しながら、探究的な学びへとつないだ授業改善を進める。

### (3) 研究仮説

児童の個性を生かしながら社会性を育む「協働的な学びの場」を児童の必要感を見据えて設定することや、学習全体を通して得られた考えについて意図的な振り返りを行わせることによって、自分で学びを進める児童の育成につながるであろう。

### (4) 研究内容

◎児童が自ら学びを進める「自己調整学習」を取り入れた授業づくり

#### (ア) ○学習としての「評価」の充実

- ・振り返りの視点の明確化（学びのつながりや他者とのつながりを意識した振り返り・児童自らの実生活への活用の可能性・次時への課題・自己表現・自己変容・自己肯定感）  
→本校オリジナルの振り返りの視点（別紙添付資料）
- ・ポートフォリオ評価（児童が作成した成果物の保存や掲示，単元や授業ごとの児童の振り返りの変遷を記録する）

#### (イ) ○「協働的な学習活動」を充実させる思考の場の工夫

- ・思考スキルの明確化
  - ①論理的に考える力…「比較する」，「分類する」，「理由付ける」，「構造化する」など
  - ②批判的・創造的に考える力…「多角的に見る・多面的に見る」，「視点を移動する」，「関連付ける」「つながりに気付く」など
- ・話し合いの場の設定の工夫や思考ツールの効果的な活用

#### (ウ) ○系統的に育成を目指す資質・能力に即した「探究的な学習における内容」の充実

- ・生活科・総合的な学習の時間において，PBL の考え方を参考にした単元開発
- ・総合的な学習の時間とのカリキュラム・マネジメントの視点を鑑み，研究教科等に設定している生活科・総合的な学習の時間に生かすことのできる教科単元での内容研究
- ・各教科や生活科・総合的な学習の時間を中心に自己調整学習を取り入れる。（その子どもならではの課題の設定，子供自身による情報の収集，整理・分析，まとめ・表現，振り返りを行う等，主体的に学習を最適化することを教師が促す「学習の個性化」）

### (5) 仮説検証方法及び達成目標

○教職員・児童への達成度調査・意識調査の実施と分析

○児童の学びに対する振り返りの分析(児童のノートや成果物等を授業研修等で交流する)

#### 【達成目標】

- ・教職員アンケートの肯定的割合 80%以上
- ・児童アンケートの肯定的割合 80%以上
- ・「みんなで学習したり振り返りをしたりすることを通して，自分から学習を進めることができた」の調査項目 肯定的割合 80%以上

年間研修計画（2024.0501 現在）

- ①全体研修（授業を伴わない場合は、校内研修）：全教職員で、授業研究や理論研修、協議会やワークショップを行う。成果及び課題を今後の単元開発や単元構成、また授業に生かす。
- ②新採研修の示範授業における一授業研修：新規採用教員や管理職、希望する教職員が参観する。成果及び課題を今後の単元構成や、授業に生かす。

○研修計画日程案

月	研修内容，全体研修授業公開教諭（学級／教科等）	講師
4月	○研究推進計画検討（研究主題，研究内容，検証の指標と計画） ○探究的な学びを中核とした「学びの变革」カリキュラム研究開発事業 →県指定 R6・R7（熊中学区） 第1回推進協議会 ○企画委員会及び研究推進部会（本年度の研究内容・授業者決定と計画）	
5月	○校内研修（研究推進部） 「今年度の研究推進計画について」「授業実践に向けて（PBL含む）」 「生活科・総合的な学習の時間における単元内容とその開発について」 ○モジュールタイム，くまいちスタイル，学習規律の確認	示範授業における一授業研修（初任者研修年間計画に準ずる）
6月		
7月	○7月 日（）校内研修「講座 広島県立教育センター研修	
8月	○全体研修 指導案検討①低学年部 1年 生活科 ②中学年部 3・4年 総合的な学習の時間 ③高学年部 5・6年 総合的な学習の時間	
9月		
10月	○10月 日（）全体授業研修② 学年部 年 授業者：教諭（— / ） ○10月 日（）全体授業研修③ 学年部 年 授業者：教諭（— / ）	
12月	○本校児童に身に付けたい資質・能力について校内研修 12月 日（）全体授業研修① 低学年部 授業者：金山 伊織教諭（1—2/生活科）	
1月	○各学年の全体計画の見直し （学年部：「育てようとする資質・能力と各教科との関連」の視点から） ○次年度育成したい資質・能力の見直し	
2月	○研究成果の取りまとめ（研究推進部） ○ユネスコスクール活動調査回答 ○ユネスコスクール活動作成	
3月	○全体研修（来年度に向けた研究推進計画の策定）	

